

魚欄観音

久下公民館 栗原保夫

東竹院の境内に「魚欄観音」と呼ばれる観音様がいらっしゃいます。魚を入れた竹かごを手にさげて、お立ちになっていらっしゃいます。

昔、中国は唐の時代、河南の地に美しい少女がいたそうです。彼女は、毎日、竹かごに魚を入れて売って歩いていました。あまりに彼女が美しいので、若者たちは、なんとか自分の妻にしたいものと競い合ったそうです。そこで彼女は「一晩で観音経を暗誦できたら、その人の妻になりましょう。」と言いました。翌朝には百人もの若者が暗誦しました。そこで彼女は、「金剛経を」と言いますと十人が残りました。更に「法華経を」と言いますと、馬氏一人だけが残りました。彼女は約束通り馬氏と結婚しますが、結婚式が終わらないうちに急死してしまいます。世俗の欲望にふけて、教えを求めようとしなかった者に、観音様が美しい少女となって現れ、目先にとらわれず、本当のものを求めよと、教え、導かれたのだと言われていきます。

この美しい魚売りの少女の姿を再現したのが「魚欄観音」です。ふるさとは、野仏をはじめ、たくさんの文化財があります。外見だけを見て終わりにしてしまうのではなく、見えない部分に、より学ぶことが多いような気がします。これからは、それらを学んでおきたいと考えています。



(熊谷市公協だより 第34号 平成13年より)